

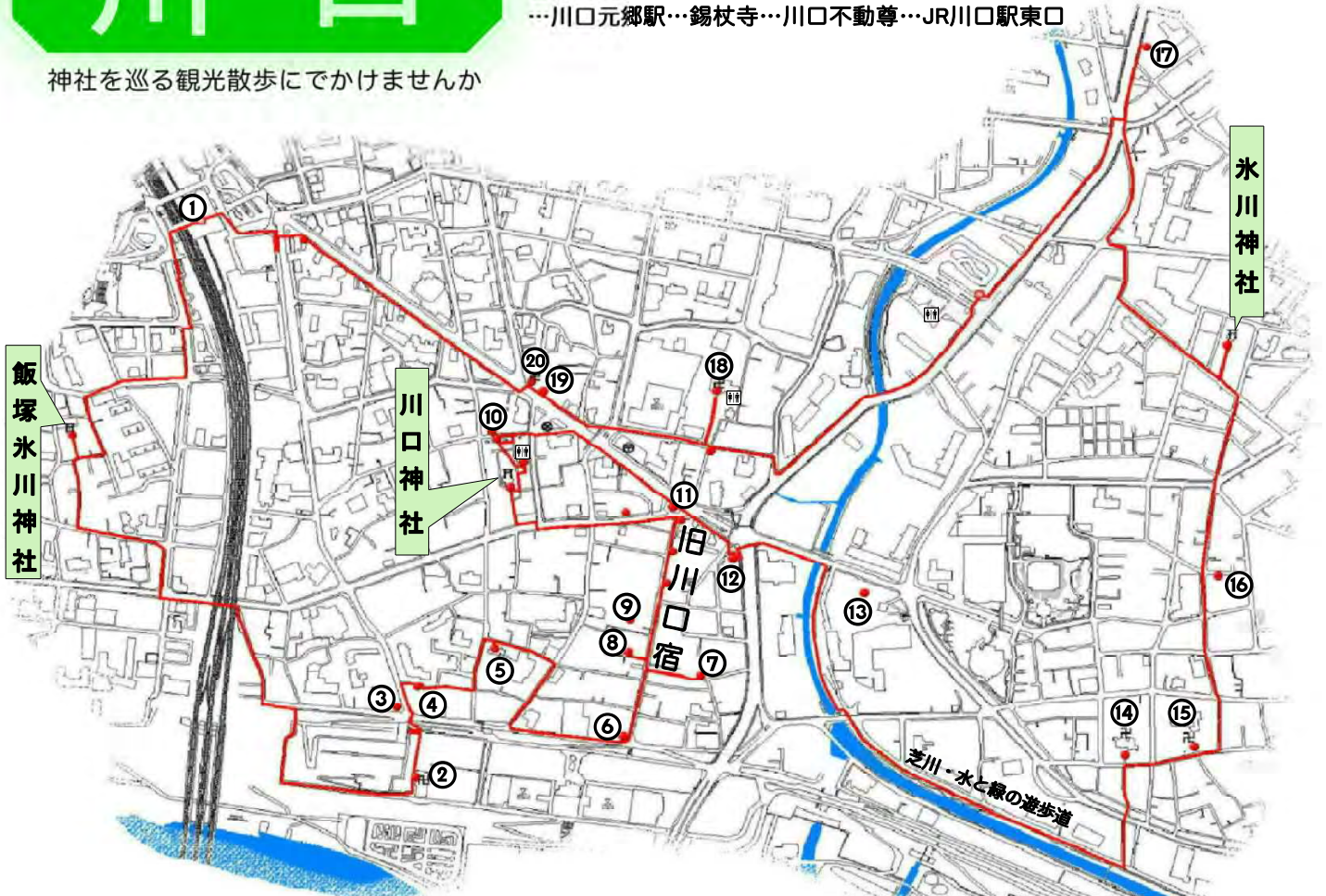
さいたま神さまマップ 3

川口

基本コース 約 8.7 km

JR川口駅西口…飯塚氷川神社…善光寺…金山稻荷…母子福祉センター…鎌倉橋の碑…カノン砲…本一商店街(旧川口宿)…川口神社…多々良煎餅…川口宿ミニパーク…川口市立文化財センター…川口鑄物工業協同組合…芝川・水と緑の遊歩道…正覚寺…随泉寺…平柳蔵人居館跡…氷川神社…旧田中家住宅…川口元郷駅…錫杖寺…川口不動尊…JR川口駅東口

神社を巡る観光散歩にでかけませんか



① JR川口駅 西口 東口
日本初の私鉄「日本鉄道」は、明治15年(1882)に川口・熊谷間で建設が開始され、翌年、上野・熊谷間が開通しました。しかし、当時の川口は、東京との物流を荒川の舟運で行っていたため、「川口町駅」が開業したのは、28年も後の明治43年(1910)でした。その後、昭和9年(1934)の市制施行により、現在の「川口駅」に改称しました。



② 善光寺
建久8年(1197)に創建され、長野・甲府と共に三大善光寺の一つに数えられました。「一生に一度は長野の善光寺、一年に一度は川口の善光寺」といわれ、江戸時代は江戸庶民の参詣で賑わいました。



③ 鑄物工場
江戸時代以前から続く鑄物産業の町・川口の中でも、かつてこのあたりは工場街で、こうした鑄物工場が100軒近く軒を並べていました。近年、その多くがマンションに建て替わっています。



④ 金山稻荷・庚申塔
川口神社境内の金山神社は、この道向かいにあった塚の上にあります。かつての境内にあった稲荷と庚申塔は、そのまま地元で祀られてきました。



⑤ 母子福祉センター
旧鑄物問屋「鍋平」の別邸。明治から昭和初期の主屋・離れ・蔵は国の登録有形文化財。午前9時～午後4時。月曜日、祝日、年末年始は休み。



⑥ 鎌倉橋の碑
日光御成街道は、以前、鎌倉街道と呼ばれ、かつて荒川堤外にあった小川に架かる橋の名もそれに因んで名付けられていました。



⑦ 18インチ カノン砲
嘉永5年(1852)、当家の初代で鑄物師の増田安次郎が、西洋砲術家で幕府砲術奉行の高島秋帆と協力して製作した大砲の復元品。安政5年(1857)までに213門の大砲で41,323発の砲弾を製造しました。



⑧ 川口宿本陣の門
川口宿の本陣の永瀬家は、宿の名主も務めていました。また、全国の鑄物師を支配した真継家より、許状を受けた川口鑄物師の中で、由緒鑄物師の筆頭に名を連ねていました。



⑨ 永瀬電灯所発電所跡
川口鑄物の近代化に尽力した永瀬庄吉が、明治33年(1900)に埼玉県で最初に発電事業をおこなった発電所の建物。個人の邸内にあるため見学不可。門の外からは見ることができません。



⑩ 多々良せんべい
鑄物を溶かすときに使われた足踏み送風機「たたら」にちなんだ炭火手焼きの各種せんべいは、川口市観光みやげ。



⑪ 川口宿ミニパーク
日光御成街道川口宿絵図や「鍋屋の井」というこのあたりの鑄物工場にいくつもあった自噴水「吹き井戸」の解説のほか、川口町道路路標が立っています。



⑫川口市立文化財センター

川口の原始から近世までの埋蔵文化財や鑄物などの地場産業や歴史、民俗の文化財が展示されています。入場料100円、午前9時から午後5時。月曜日、祝日、年末年始は休み。



⑬川口鑄物工業協同組合

400年以上の歴史を持つ川口の鑄物業は、江戸・東京の発展と共に発達してきました。明治38年に組織された組合は、鉄銑などの資材の共同購入や材料の分析や試験などをこなっています。



芝川・水と緑の遊歩道

芝川は洪水被害の軽減のため新芝川が開削されたために上流と下流の水門が閉じられ、水質汚濁が進んだことから、昭和56年から改修工事が進められ、水辺散策路や植栽が整備されています。



⑭ 正覚寺

曹洞宗。本尊は釈迦牟尼仏。戦国時代、岩槻城主太田資正の配下で、このあたりの領主であった平柳蔵人の開基。北条方との戦に敗れて一族は全滅し、当寺には一族の位牌が残されています。



⑮ 随泉寺

真言宗。山号は光明山。本尊は阿彌陀如来。天文11年(1542)の開山。北足立八十八ヶ所霊場三十五番。



⑯ 平柳蔵人居館跡

現在、川口市立南平公民館元郷分館となっているあたり



⑰ 旧田中家住宅

田中家は代々、味噌の醸造業や材木商を営み、四代目田中徳兵衛は家業の傍ら、埼玉味噌醸造組合理事長・南平柳村長・埼玉県議会議員・貴族院議員を歴任しました。洋館は大正10年(1921)から2年



⑱ 錫杖寺

真言宗。将軍が日光社参の際、昼食の場となったのが錫杖寺で、三代将軍家光以来恒例となりました。味が楽しめます。吉永小百合



⑲ 太陽堂菓子店

手造りの団子・餅菓子・のり巻きなど、なつかしい昭和の主演映画「キューボラのある街」にも登場するお店です。鑄物製「ペーゴマ」も販売。



⑳ 成田山川口分院

真言宗、成田山明王寺。本尊不動明王。通称「川口不動尊」。

飯塚氷川神社 (いづかひかわじんじや) 川口市飯塚1-7-18

祭神は、素戔鳴尊(すさのおのみこと)をお祀りしています。当社は江戸時代まで「恵美須社」と呼ばれており、永正13年(1528)に宥光法師により創建されたと伝えられる、真言宗薬王山観音寺最勝院が別当を務めていました。

また、飯塚村は、宝永3年(1706)から幕末まで江戸の根津権現(ねづごんげん)社領となっていました。根津権現(現、根津神社)は、五代将軍綱吉が兄綱重の子綱豊(六代家宣)を養嗣子に定めた際、産土神(うぶすながみ)として千駄木から綱重の別邸に遷して造営されたもので、社領500石を拝領しましたが、この社領の内、約6割の288石が飯塚村にあたります。

明治になると社号を「氷川社」に改称し、さらに昭和21年(1946)、現在の『飯塚氷川神社』に改称しました。



川口神社 (かわぐちじんじや) 川口市金山町6-15

祭神は、素戔鳴尊(すさのおのみこと)をお祀りしています。創建は天慶年間(てんぎょうねんかん・西暦940年頃)と伝えられ、「氷川社」「氷川大明神」と称され川口町(川口宿)の鎮守として祀られていました。暦応2年(1339)および天文4年(1535)の板碑や室町初期の古神像、江戸期の棟札等が残されています。

維新後の明治6年に村社に指定された後、明治42年(1909)に町内の神社を合祀して、社名を「川口神社」と改めました。さらに、川口市の総鎮守として県社に列せられました。

また、8代将軍吉宗は見沼溜井開発を、幕府勘定役井澤弥惣兵衛に命じ、その配下であった杉島貞七郎が、産土神であった当社に工事成功を祈願し、成功の後、神恩に感謝して奉納された神鏡は、現在、市指定有形文化財となっています。

境内社・金山神社 (かなやまじんじや)

祭神は金山彦命(かなやまひこのみこと)。川口の鑄物関係者にとって、金山神社は金属に関する技巧の守護神・火の神として崇敬され、工場内の神棚には金山神社のおふだが祀られています。

金山神社は、江戸時代まで「金山権現社」と呼ばれ、明治42年(1909)に氷川社(現在の川口神社)への合祀されるまで、金山町塚越にありました。昭和22年(1947)、金山神社を独立の境内社とし、昭和33年(1958)には、金山彦命を祀る総本宮である美濃一の宮・南宮大社(なんぐうたいしゃ)の例大祭に因んで、例祭日を5月5日としました。

なお、境内社の八雲社社殿となっている金山神社の旧本殿は、宝永4年(1707)の棟札があり、川口市指定有形文化財。



氷川神社 (ひかわじんじや) 川口市元郷1-30-2

祭神は、素戔鳴尊(すさのおのみこと)相殿神として市杵島姫命(いちきしまひめのみこと)をお祀りしています。

当社は室町後期に当地・平柳領15ヶ村の領主であった平柳蔵人(ひらやなぎくらんど)が、霊夢のお告げにより武蔵国一宮氷川神社(さいたま市大宮区高鼻町鎮座)を勧請し、創建したと伝えられています。

当初は荒川の堤のそばに建てられていましたが、水難を避けるため、元和8年(1622)9月に、現在地に遷座されました。

なお、由来は不明ですが、当社は江戸時代に「四郎の宮」とも呼ばれていました。現在も「四ノ宮 氷川大明神」と書かれた社号額があります。

